

第4次中期経営計画

平成36年3月期までの長期的な展望のなかで、新たに目指す銀行像を「銀行をこえる銀行へ」と定め、その実現に向けて邁進してまいります。

経営理念

地域社会の繁栄に貢献し、地域とともに歩む
堅実経営に徹し、たくましく着実な発展をめざす

紀陽銀行の目指す銀行像

「銀行をこえる銀行へ」

お客さまの期待や地域の壁をこえ、銀行という枠をこえることを目指します。

第4次中期経営計画における主要テーマ

地元地域(和歌山・大阪)の特性に応じ、明確な地域別戦略のもとで成長速度を高める

「取引先数の増加」に徹底的にこだわる営業推進

人材育成・登用の強化等による「成長を支える活力ある組織」づくり

「対取引先」と「対地元地域」という2本柱による「地域活性化への貢献」

主要戦略

- 1 永続的に地域を支えるための経営効率向上**
 - 「預金4兆円」の早期達成
 - 店舗チャンネルと営業体制の抜本的見直し
 - 計画的かつ積極的な新規店舗・チャンネル投資 など
- 2 規模を利益につなげる営業推進強化**
 - 「リレバン型営業の徹底」による貸出先・貸出・収益の増強
 - 預かり資産営業体制の強化 など
- 3 市場における企業評価・ブランド力の向上**
 - 大阪府内でのプロモーション強化(営業戦略)
 - CS向上への取り組みの更なる強化 など
- 4 経営管理態勢の更なる強化**
 - コンプライアンスの徹底
 - 大規模災害を想定した対策の強化 など

第4次中期経営計画における長期的な地域別(和歌山・大阪)の方向性

大阪地域における営業方針

取引先向けリレーションシップ・バンキングの展開

- 地域シェア向上に向け経営資源を積極的に投下
- 店舗チャネル充実のための新店開設
- 個人取引先の増加による預金調達基盤の拡充
- 取引先毎の課題・ニーズ把握などリレーションシップ・バンキング活動を徹底
- 総合取引推進によりメイン取引先を増やす活動を継続

大阪の成長力ある地銀として
平成36年3月期に目指す姿

- 預金残高
2.0兆円程度(1.0兆円増加)
- 貸出金残高
2.0兆円程度(0.7兆円増加)



和歌山地域における営業方針

地域に対するリレーションシップ・バンキングの展開

- 将来の預金減少に備え調達基盤を強化
- 営業体制の効率化を進めながら地域金融機能を維持
- ファンドの活用等による地域活性化への貢献
- 地域の事業者や地方公共団体等と連携した地域リレーションシップ・バンキングの推進

和歌山のトップ地銀として
平成36年3月期に目指す姿

- 預金残高
3.0兆円以上(0.4兆円増加)
- 貸出金残高
1.0兆円以上(現状維持)

第4次中期経営計画終期における主要数値目標

紀陽銀行単体

		平成27年3月期 実績	平成30年3月期 計画
規模	預金等残高(譲渡性預金含む未残)	3兆8,397億円	4兆2,300億円以上
	貸出金残高(未残)	2兆6,681億円	2兆8,400億円以上
	投資信託残高(未残)	1,906億円	2,900億円以上
収益性	実質業務純益(コア業務純益+債券関係損益)	145億円	170億円以上
	当期純利益(連結ベース)	112億円	100億円以上